

# JICA 海外協力隊員のベトナムへの渡航再開



北岡理事長と再赴任隊員との意見交換



新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全世界の JICA 海外協力隊が一時退避していましたが、11 月 25 日、ベトナム隊員の西山典子隊員（作業療法士）、清水沙悠梨隊員（障害児・者支援）、大森美和隊員（看護師）、種市香織隊員（観光）の 4 名が第一陣として再赴任しました。12 月 10 日には、訪越した北岡伸一 JICA 理事長に面会し、隊員は再赴任後の活動についての抱負を語り、北岡理事長から「外国人材の受け入れを進める日本国内においてベトナムでの経験や能力が今後ますます必要になる」との激励を

受けました。この様子は本邦メディアでも報道され、インタビューを受けた大森美和隊員は、「再派遣第一陣として、感染予防に注意し、安全に任務を全うすることで、国際協力の道を途絶えさせることなく繋いでいきたい」との決意を述べました。隊員 4 名は既に任地に赴任し、現地にて本格的な活動の準備を進めています。加えて、12 月には 3 名、2021 年 1 月には 2 名の隊員がベトナムに到着予定です。

## 目次

### 【巻頭】

- ・ JICA 海外協力隊員のベトナムへの渡航再開
- ・ 北岡理事長がベトナムを訪問

### 【成長と競争力強化】

- ・ JICA ベトナム事務所・JETRO ハノイ事務所・ベトナム計画投資省外国投資庁 (FIA) が協力覚書を締結
- ・ 日越大学初となる学部生と修士 5 期生の入学式及び修士 3 期生の卒業式を開催
- ・ 無償資金協力「人材育成奨学計画」における留学生の募集
- ・ 海外投融資「ビンズオン省上水道拡張事業」に対する融資契約の調印
- ・ 技術協力「工業所有権の審査能力強化プロジェクト」に関する討議議事録に署名
- ・ 円借款「ハロン市下水排水処理事業」貸付契約の調印

### 【脆弱性への対応】

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | ・ アクティブ・エイジングとメンタル・ヘルスの促進                         | 5 |
| 2 | ・ ベトナムにおける新型コロナウイルス感染対策に対する支援「国立熱帯病院に対する検査能力向上支援」 | 6 |
| 2 | ・ ベトナムの貴重な自然資源である森林の持続的管理に向けてワークショップを開催           | 7 |

### 【その他】

- |   |   |    |
|---|---|----|
| 3 | ・ 円借款「ラックフェン国際港建設事業（港湾）」の令和元年度土木学会技術賞受賞を記念する式典を開催 | 7  |
| 4 | ・ 「日本に出逢う 2020 (Meet Japan 2020)」                 | 8  |
| 5 | ・ ベトナムへの JICA 海外協力隊派遣 25 周年記念イベント                 | 8  |
| 5 | ・ 事業紹介「ハノイ市エンサ下水道事業」                              | 9  |
| 5 | ・ JICA ベトナム事務所ホーチミン出張所 首席紹介                       | 10 |

# 北岡理事長がベトナムを訪問



フック首相との面談

12月9日から11日にかけて、北岡伸一 JICA 理事長は、新型コロナウイルス感染拡大後、初めての海外出張としてベトナムを訪問し、再渡航した海外協力隊4名へ激励、グエン・スアン・フック首相との会談、国立衛生疫学研究所（NIHE）への理事長表彰授与、バックマイ病院への医療機材目録の引渡しを行いました。

フック首相との会談で北岡理事長は、新型コロナウイルスのパンデミックを受け、サプライチェーンの再構築が迫られている現状は、ベトナムの更なる発展にも好機であると指摘し、船舶の自由な航行のための海上保安協力、ASEAN 諸国との連携強化を含む人材育成への協力を進めると述べたほか、日越関係の更なる深化のため、日越双方の有識者によるハイレベル対話を行う枠組みについて提案しました。

フック首相は、これまでの多くのインフラ整備、先の台風被害等に対する日本の迅速な支援への謝意とともに、日本の政策である「自由で開かれたインド太平洋」を歓迎、また、日越の広範な戦略的パー

トナーシップという特別な信頼関係を前提に、今後も経済、貿易、投資、観光等の分野に加え、医療、海上保安にも協力を強化したい旨述べました。

これらの様子は国内外のメディアを通じて報道されました。



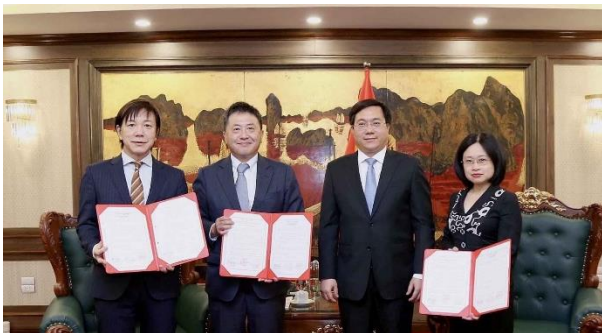
JICA 理事長賞授与の様子（左：北岡理事長 右：NIHE アイン所長）



バックマイ病院への医療機材目録の引渡し  
（左：北岡理事長 右：バックマイ病院トウアン院長）

\*北岡理事長がベトナムを訪問：新型コロナウイルス感染拡大後初の海外訪問、フック首相と面談のほか、再赴任した海外協力隊を激励  
[https://www.jica.go.jp/press/2020/20201215\\_11.html](https://www.jica.go.jp/press/2020/20201215_11.html)

## 成長と競争力強化 JICA ベトナム事務所・JETRO ハノイ事務所・ベトナム計画投資省外国投資庁（FIA）が協力覚書を締結



協力覚書の締結をベトナム計画投資省ドン副大臣に報告  
（左から JETRO ハノイ事務所中島所長、JICA ベトナム事務所清水所長、ベトナム計画投資省チャン・ズイ・ドン副大臣、ベトナム計画投資省外国投資庁（FIA）ヴァン副長官）

10月19日、JICA ベトナム事務所は、JETRO ハノイ事務所とベトナム計画投資省外国投資庁（FIA）の三者間で、日本企業によるベトナムへの投資促進に向

けた協力覚書（Memorandum of Cooperation: MOC）を締結しました。

本協力覚書では、既存事業の拡大や、サプライチェーンの多元化に対応した事業の拡大が見込まれるベトナムへの日本の投資を促進するための情報交換や、投資セミナー、カンファレンス、イベントの開催について協力を進めていきます。

活動協力の一例として、ハノイやホーチミン等大都市近郊で人材確保がひっ迫する中、多くの企業が地方に目を向けつつあることを踏まえて、投資家にとって有益な情報を提供出来るよう、三者で協力し地方省ガイドブックの作成に取り組みます。ガイドブックには、ベトナム 63 省・市の基本情報や投資家



が省・市への進出を検討する際に必要な情報を、関係省・市とも連携し記載する予定です。

今後もこのような日本企業に対する投資情報の提供や投資促進の為に必要な活動を三者協力により行

っていきます。



成長と競争力強化

## 日越大学初となる学部生と修士5期生の入学式及び修士3期生の卒業式を開催



日越大学（VJU）学士1期生・修士5期生 入学式

11月7日、日越大学は、ベトナム国家大学ハノイ校内にて、日越大学（VJU）学士1期生・修士5期生の入学式と、修士3期生の学位記授与式を開催しました。

JICAは、2015年から日越大学に対して技術協力支援を実施しており、現在は技術協力「日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト」（2020年4月～2025年3月）を通じて、ベトナム社会および産業界の発展を担う人材輩出を目指し、支援を行っています。

今回、新型コロナウイルス感染拡大の影響で本邦から訪れた出席者はいなかったものの、入学式では、武部勤 日越友好議連特別顧問、早稲田大学の田中愛治総長、法政大学の田中優子総長から祝辞が贈られました。

VJUでは今年から学部課程が開設され、定員50名に対し約4倍となる195名が出願するほどの人気で、

58名が入学しました。初めての学部は日本学と銘打たれ、2年間の基礎科目等を履修後、3年次からは「法律」、「経済・経営」、「日本語教育」の3コースから専攻分野を選びます。

修士課程には68名が入学し、そのうち18名が留学生です。日本政府による奨学金を活用したメンバーからが過半数を占め、日本や中国、香港、ナイジェリア、ガーナ、ラオス、セルビアからも入学しています。



日越大学（VJU）修士3期生 学位記授与式

昼食を挟み午後に行われた学位記授与式では、66名の卒業が祝われました。初めての外国人留学生も4名卒業し、博士課程への進学（日本留学が8名）、日本やベトナムの企業等への就職など、幅広い進路を選び、これからの日越友好の懸け橋となっていくことが期待されます。



成長と競争力強化

## 無償資金協力「人材育成奨学計画」における留学生の募集



留学生の壮行会（2019年度）

2020年11月、ベトナム教育訓練省、日本大使館及び国際協力機構（JICA）は無償資金協力事業「人材育成奨学計画（JDS）」における留学生の募集を開始しました。\*

JDSは、途上国の優秀な若手行政官等に日本の大学院への留学機会を提供することにより、同国の社会・経済開発を牽引するリーダーの育成及び日本と各国との友好関係強化に資するプロジェクトです。2000年の開始以降、ベトナムから日本には691名が留学しています。

留学生はベトナムの重点開発課題に合わせて設定した各対象分野（経済、都市開発、エネルギー、農業、環境、法整備、行政）において日本の大学で2年間の留學生活を送ります。

募集締め切り（2020年12月25日）後、2021年3月までに厳正な募集選考を経て、60名までの候補者が選ばれ、2021年8月には日本に向けて出発します。JDSの詳細情報はJDSプロジェクトオフィス、またはJDSの公式サイトをご覧ください。

### JDS Project Office in Viet Nam

Address: 3rd Floor, VJCC, Foreign Trade University,  
91 Chua Lang, Dong Da, Hanoi, Viet Nam

TEL : 024-3934-7711 / 7712

Email: [jds.vietnam@jice.org](mailto:jds.vietnam@jice.org)

JDS Official Website: <https://jds-scholarship.org/country/vietnam/>

\* JICA ベトナム事務所 Facebook

[https://m.facebook.com/story.php?story\\_fbid=2808465706109029&id=1649832721972339](https://m.facebook.com/story.php?story_fbid=2808465706109029&id=1649832721972339)

※ 2020年10月26日、国際協力機構（JICA）は、ベトナム教育訓練省との間で、「人材育成奨学計画（JDS）」を対象として、7億7400万円を限度とする無償資金協力の贈与契約（Grand Agreement G/A）を締結しています。



成長と競争力強化

## 増大する水需要に対応し経済発展に貢献 「ビンズオン省上水道拡張事業」に対する 融資契約の調印（海外投融資）



プロジェクトサイト

11月17日、JICAはビンズオン省で上水道・廃棄物処理事業を展開する Binh Duong Water Environment Joint Stock Company (BIWASE) に対し、最大800万米ドルを供与する融資契約を締結しました。本事業は「対ASEAN海外投融資イニシアティブ\*（2019年11月発表）」に資する事業で、アジア開発銀行（ADB）との協調融資により実施されます。

本事業の対象であるビンズオン省は、日系企業をはじめとする大規模な工業団地が集積する地域であるとともに、ホーチミン市への通勤者のベッドタウンとなっており、同地域の水需要は過去5年平均で年17%のペースで増大しています。

BIWASEは1975年に設立し、2016年に民営化した上水道・廃棄物処理事業者で、ビンズオン省の人口の76%に上水道サービスを提供しています。また、JFEエンジニアリング株式会社がBIWASEの株式の3.87%を取得しており、浄水場、下水処理場、廃棄物関連事業における協業を進めています。

本事業において、JICAの融資はタンヒエップ浄水場の拡張整備に活用され、融資対象の既設浄水場の給水能力は約80%増強されます。また、清潔な水の供給により、新型コロナウイルスの拡散を抑制・予防するとともに、SDGs（持続可能な開発目標）ゴール6、17に貢献します。

\* 対ASEAN海外投融資イニシアティブ

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000545076.pdf>

※関連リンク

JICA ニュースリリース

[https://www.jica.go.jp/press/2020/20201117\\_10.html](https://www.jica.go.jp/press/2020/20201117_10.html)

「南部ビンズオン省水環境改善事業」

[https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2006\\_VNXIV-4\\_1\\_s.pdf](https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2006_VNXIV-4_1_s.pdf)

「南部ビンズオン省水環境改善事業（フェーズ2）」

[https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2011\\_VN11-P10\\_1\\_s.pdf](https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2011_VN11-P10_1_s.pdf)





## 技術協力「工業所有権の審査能力強化プロジェクト」に関する討議議事録に署名

11月24日、ハノイにて、JICAは技術協力「工業所有権の審査能力強化プロジェクト」に関する討議議事録（Record of Discussions: R/D）に署名しました。

本事業は、特許庁から長期専門家を派遣し、ベトナム国家知的財産庁（IP Vietnam）における特許審査基準の改訂や、審査の品質管理に関する文書の作成、特許審査能力の強化を通じ、安定的かつ信頼できる特許審査の運用の確立を目指します。また、SDGs（持続可能な開発目標）ゴール8、9に貢献します。

ベトナムでは、近年の経済発展も相まって、先端技術を含む様々な技術分野において、国内外からの特許出願件数が急増しています（2009年の2,896件

から、2018年には6,174件と2倍超に増加）。そのため、審査の品質（透明性、予見性、一貫性、正確性）を保ちつつ、適時に審査を実施する体制を整えることが課題となっています。

本事業により、ベトナム国家知的財産庁（IP Vietnam）において安定的かつ信頼できる特許審査の運用が促進されることで、ベトナムの更なる経済発展や外資企業の進出にも貢献するビジネス環境の整備が期待されます。

\* JICA ニュースリリース

[https://www.jica.go.jp/press/2020/20201124\\_20.html](https://www.jica.go.jp/press/2020/20201124_20.html)



## 下水道システムの整備を通じた世界遺産のハロン湾の水質改善やハロン市の環境改善に貢献 円借款「ハロン市下水排水処理事業」貸付契約の調印



ハロン湾

11月25日、ハノイにて、JICAは、ベトナム社会主義共和国政府との間で、「ハロン市下水排水処理事業」を対象として118億9,100万円を限度とする円借款貸付契約（Loan Agreement: L/A）に調印しました。

本事業では、ベトナム北部クアンニン省ハロン市において、下水処理場及び下水管路を整備します。ハロン市とハロン湾海域の公衆衛生の改善及びクアンニン省の持続可能な開発の支援を目的とし、SDGs（持続可能な開発目標）ゴール6、13、14に貢献します。

\* JICA ニュースリリース

[https://www.jica.go.jp/press/2020/20201125\\_10.html](https://www.jica.go.jp/press/2020/20201125_10.html)



## ASEAN 高齢化ワークショップ アクティブ・エイジングとメンタル・ヘルスの促進



パネルディスカッションの様子

11月18～19日、2020年のASEAN議長国を務めるベトナムのハノイで、ASEAN 高齢化ワークショップが開催されました。ASEAN 諸国の保健関係者や国連地域事務所がオンラインで参加するとともに、世界保健機関（WHO）、国連人口基金（UNFPA）等の国連機関、NGO、東アジア・ASEAN 経済研究センター（ERIA）、ベトナムの関連省庁、大衆組織、研究機関等、総勢200名が参加しました。

同ワークショップで、ASEAN 諸国から、今回のテーマである歳を重ねても生き生きと生活する「アク

ティブ・エイジング」\*と、認知症を含む「メンタル・ヘルス」の取り組み、新型コロナウイルス感染症の高齢者や高齢者ケアへの影響についての報告が行われました。

パネルディスカッションでは、WHO、UNFPA、ベトナム保健省、ベトナム高齢者協会、デロイト・アジア・パシフィック（民間セクター代表）、JICA ベトナム事務所岩間次長が登壇し、「高齢化」を社会経済開発における「課題」と「チャンス」の両面から捉えた議論がなされました。JICA ベトナム事務所岩間次長からは、日本の高齢化政策の変遷と経験や、ASEAN 各国での JICA の協力、昨年 JICA ベトナム事務所が世界銀行と共に実施した「高齢者ケアのための知見共有プログラム」を紹介しました。同プログラムで、ベトナムの高齢化政策に関わる省庁や研究機関に対して日本の経験の共有や、タイで実施中のプロジェクト視察を行ったことを例に挙げながら

「それぞれの国がどのような社会をつくりたいかをまず考えること、そしてそのために必要なリソースや既存のリソースを活用した政策を考えていくことが重要である」と述べました。

2011 年、ベトナムは、65 歳以上の高齢者の割合が全人口の 7% 以上となる高齢化社会となりました。現在の高齢者人口は 7.4 百万人ですが、2050 年には現在のおよそ 3 倍の 22.3 百万人になると推定されています。今後、ベトナムを含む ASEAN 諸国で急速に高齢化が進むため、ASEAN 各国における高齢化対策は急務です。JICA は引き続き、ベトナムの高齢化対策の取り組みを支援していきます。

\*「人々が年を重ねても生活の質が向上するように、健康、参加、安全の機会を最適化するプロセス」で、世界保健機関（WHO）が提唱した概念。



## 脆弱性への対応

# ベトナムにおける新型コロナウイルス感染対策に対する支援 国立熱帯病病院に対する検査能力向上支援



中央左：JICA ベトナム事務所岩間次長  
岩間次長左隣：日本大使館清水一等書記官 中央右：国立熱帯病病院タック院長

JICA は、国立熱帯病病院の要請に基づき、新型コロナウイルスによる感染対策支援として全自動リアルタイム PCR 検査システムなどの検査機器（総額 6 千万円相当）への支援を開始しています。11 月 25 日、その一部を国立熱帯病病院に引き渡しました。

JICA はベトナムの HIV 蔓延の抑制に向けた技術協力「ベトナムにおける治療成功維持のための bench-to-bedside system\* 構築と新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト」を、ベトナム北部地域の感染症の拠点病院である国立熱帯病病院とともに実施しています。プロジェクトでは、地域病院での HIV 治療状況を中央でモニタリングする仕組みの構築や、HIV ウイルス感染にかかる免疫機能に関する研究開発を行っています。今回の国立熱帯病病院に対する支援は、プロジェクトで扱う HIV ウイルスに関する検査技術の能力強化とともに、新型コロナウイルス感染症対策のための PCR 検査の能力強化の観点から行うものです。

新型コロナウイルス感染症の対策において、国立熱帯病病院は、新型コロナ感染の重症患者を含む患

者治療の第一線を担うとともに、感染者の隔離や PCR 検査を実施しています。感染拡大が著しい 3 - 4 月には、200-300 検体/日の PCR 検査を実施していましたが、検査に使用するリアルタイム PCR 装置は、手動で行う部分も多く検査に大きな労力と時間を費やすなど、病院の大きな負担となっていました。7 月にダナンで感染流行が起こって以降、市中感染は落ち着いているものの、9 月からの国際往来の再開により現在でも約 1 万 5 千人が隔離下にあるなど、ベトナム政府は引き続き感染拡大を警戒しています。

本支援によって、PCR 検査の迅速化と国立熱帯病病院の負担の軽減につながることを期待されており、JICA は引き続き、日本政府と連携し、新型コロナウイルスを含めた感染症対策への支援に取り組んでいきます。

\* 対象医療施設の登録患者のウイルス量や薬剤耐性検査を国立熱帯病病院の検査室（bench）で行い、検査から得られた結果を迅速に対象医療施設の臨床現場（bedside）や保健省エイズ対策局等関連部署にフィードバックすることで、効果的な HIV 治療を実施するシステム



全自動 PCR 検査システム Cobas 6800





## ベトナムの貴重な自然資源である森林の持続的管理に向けてワークショップを開催



ワークショップの様子

11月27日、ハノイにて、JICAは、技術協力「持続的自然資源管理（SNRM）プロジェクト（2015年8月～2021年1月）」の最終ワークショップを開催しました。農業農村開発省、天然資源環境省、地方政府代表など森林分野に関連するベトナム政府機関、国際機関、NGO、日本の民間企業などが参加し、プロジェクトの成果と経験を共有しました。

同プロジェクトでは、森林セクターが面している様々な課題やニーズに対応しつつ、貴重な天然資源である森林を持続的に管理していくため、中央・地方政府関係者、地域住民、そして日本の民間企業等とも連携しつつ色々な取組みを進めてきました。特に北西部4省（ソンラ、ホアビン、ディエンビエン、ライチャウ）においては省REDD+行動計画の策定・実施、中部高原ラムドン省においては生物圏保護区の設定・実施などに取り組みました。

今回の最終ワークショップでは、それら成果の一部として以下のような取組に焦点を当てた発表が行われました。

- 地域住民との協働による森林管理及び保全
- 最新技術を活用した効果的な森林モニタリング
- 日本の民間企業との連携による森林管理と生計向上の実現
- 気候変動対策としての森林管理及びそのための外部資金の活用

JICA ベトナム事務所清水所長は、オープニングスピーチで「ベトナムにおける森林率は減少から増加に転じている一方、天然林の減少などの森林の質的劣化がみられることから、森林状況をさらに改善するために本プロジェクトが実施された。自然保全はJICAの有用な協力分野であり、同プロジェクトを通じて、森林法の改正、省レベルでの森林モニタリングシステムの構築や住民の生計向上支援がなされた」と述べました。

これらの取組みの中には、他の国際援助機関等が取り入れるなど既に広がりを見せつつあるものもあります。今回のワークショップを契機に更なる共有及び普及が図られ、プロジェクト終了後も、ベトナム側関係機関により国民の貴重な共有財産である森林の持続的管理の推進が図られることが期待されます。



その他

## 円借款「ラックフェン国際港建設事業（港湾）」の令和元年度土木学会技術賞受賞を記念する式典を開催



令和元年度土木学会技術賞受賞 記念式典

10月30日、ハノイにて、JICAが円借款で支援する「ラックフェン国際港建設事業（港湾）」の令

和元年度土木学会技術賞受賞\*1を記念する式典が開催されました。

本賞は、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクトに与えられる賞であり、ベトナムでは初の受賞となりました。なお、JICAが円借款で支援した「ラックフェン国際港建設事業（道路・橋梁）」で建設した、ラックフェン港へのアプローチ道路であるディンブーカットハイ橋が平成29年度同学会田中賞\*2及びプレストレストコンクリート工学会賞\*3を受賞しており、今回はそれらに続く技術賞の受賞となりました。

本事業は、ハイフォン市東部ラックフェン地区にベトナム北部初の国際大水深港を建設し、国際物流拠点化することで、全国の経済発展促進・国際競争力強化に寄与するものです。JICAの本邦技術活用条件（STEP）を通じた日本の優れた技術が適用されていることに加え、円借款を活用した日越初の官民連携案件であり、JICAが防波堤（3,230m）、防砂堤（7,600m）、埋立て及び地盤改良工事、航路・泊地浚渫工事、コンサルティングサービス（施工監理）等を支援し、民間企業がコンテナターミナルの建設・

運営を担うなど、上下分離方式を採用することで、安全・高品質かつ短納期での建設を実現しました。

\*1. 令和元年度土木学会技術賞受賞

[http://www.jsce.or.jp/prize/prize\\_list/p2019.shtml#s02](http://www.jsce.or.jp/prize/prize_list/p2019.shtml#s02)

\*2. 平成 29 年度同学会田中賞（ディンブーカットハイ橋）

[http://www.jsce.or.jp/prize/prize\\_list/p2017.shtml#s07k](http://www.jsce.or.jp/prize/prize_list/p2017.shtml#s07k)

\*3. プレストレストコンクリート工学会賞（ディンブーカットハイ橋）

[http://www.jpcci.or.jp/jjjj/j\\_top\\_2019-r1-fr.htm](http://www.jpcci.or.jp/jjjj/j_top_2019-r1-fr.htm)



その他

## 「日本に出逢う 2020 (Meet Japan 2020)」セミナー

11月25日、ハノイにて、ベトナム政府外務省主催、日本大使館はじめ日本政府関係機関の協力の下、「日本に出逢う 2020 (Meet Japan 2020)」セミナーが開催されました。本セミナーは2017年以降、ベトナムの地方省・市と日本との連携を通し、地方のビジネスや社会経済開発の推進を目的として毎年開催されており、今回が4回目となります。

セミナーでは、JICAをはじめとする日本政府関係機関、地方自治体等による、投資や人材育成といったテーマに沿ったプレゼンテーションの実施や展示ブースが設けられ、ベトナム側からは63の省や市の指導者・代表者及び多くのビジネス関係者、日本側からは300名を超える関係者に加え、500回線以上のオンライン配信を通じた参加がありました。

当日はベトナムの地方省や市と日本政府関係機関の間で面談も行われ、日本からの投資、地方都市と

の連携、人材育成や観光分野の協力等に対する高い期待が示されました。JICAはこれまで各機関と連携し、ベトナムの地方向けインフラ整備や人材育成等の協力を行っており、引き続きベトナムの成長に貢献していきます。



JICAブースの様子



その他

## ベトナムへの JICA 海外協力隊派遣 25 周年記念イベントを開催



オンライン隊員同窓会の様子

国際ボランティアデーの12月5日、ベトナムへのJICA海外協力隊派遣25周年を記念して、オンラインによる帰国隊員同窓会を行いました。当日は、帰国隊員19名に加え、再赴任した隊員4名とJICA事務所関係者7名の計30名が一堂に会し、隊次や国境を超えての同窓会となりました。再赴任した西山典子隊員は、「残り任期の数か月、ベトナムのために力を尽くしたい。待機中の世界中の隊員の分まで頑張りたい」と意気込みを語りました。平成24年度の



帰国隊員である相馬深輝さんからは、「まさに今、最前線で活動されている人々には初志を胸に頑張っている」との激励が寄せられました。

ベトナムへの隊員派遣は1995年、3名の日本語教育隊員から始まり、25年間で累計670名もの隊員が、北はトウインクアン省から、南はカマウ省まで、41の市や省に派遣され、分野も、日本語教育、保健医療、リハビリテーション、中小企業支援、地域振興、スポーツ、農林水産業、観光、障害児・者支援と、多岐にわたります。この25年間、隊員一人

ひとりの貢献がベトナム側の関係者に評価され次の隊員要請という形で協力隊事業は継続されています。新型コロナウイルス感染拡大により隊員派遣数は一時的に減少していますが、ベトナム政府からの要望に応えるべく、海外協力隊事業の活性化に取り組んでいきます。

\* 帰国隊員同窓会の様子は JICA ベトナム事務所 Facebook からご覧いただけます。  
[https://m.facebook.com/story.php?story\\_fbid=2833054110316855&id=1649832721972339](https://m.facebook.com/story.php?story_fbid=2833054110316855&id=1649832721972339)

## 【その他】 ハノイ市最大の下水処理場施設を建設、地下インフラを整備し首都の衛生改善に貢献 「ハノイ市エンサ下水道整備事業」

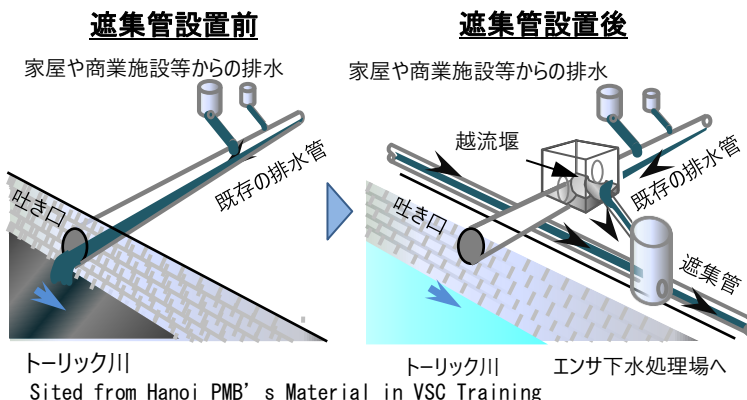
10月29日、JICAベトナム事務所は円借款「ハノイ市エンサ下水道整備事業」へのプレストアーを実施し、エンサ下水処理場（パッケージ1）と、トーリック川沿いの管渠整備を進めている工事現場（パッケージ2）を訪問しました。この機会に同事業を紹介します。

### ●ハノイ市エンサ下水道整備事業

同事業は、ハノイ市最大のエンサ下水処理場を建設し、市中心部のトーリック川・ルー川流域・ハドン地区の下水遮集管渠を整備することで、同地域の公衆衛生の改善を目指します。

「下水遮集管渠」とは、下水（汚水と雨水）が河川に放流される手前で集め、下水処理場へ送る下水管のことで、現在、各家屋からの生活排水は、既存の排水路を經由して直接トーリック川等に放流され、汚染の原因になっています。遮集管を通じてエンサ下水処理場へ下水を搬送し、ここで適切に処理された水を再び川に戻すことで、河川の水質改善を図ります。

「エンサ下水処理場」は、完成すると現状の約2倍の汚水処理能力を有するハノイ市最大規模の下水処理場となり、同市の総人口の10人に一人、約90万人相当の人々への裨益が期待されています。



### ●ハノイの河川への汚水流入の現状

ハノイ市天然資源環境局の推定では、1日あたり約15万m<sup>3</sup>の汚水がトーリック川に流入しており、トーリック川、ルー川の水質は、生活排水等の流入により環境基準値を大幅に超過していると言われてい

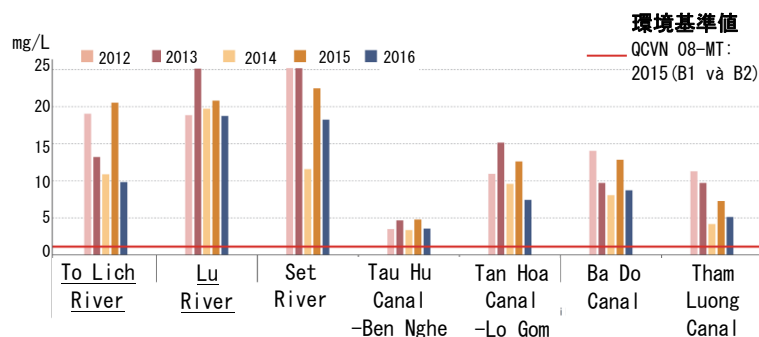


図 2.13.7. ハノイ及びホーチミン市内河川、運河におけるアンモニア性窒素の経年変化（2012～2016年（出展：MONRE2016））  
 出展：アジア水環境アウトルック 2018（アジア水環境パートナーシップ（WEPA））

### ●同事業で活かされる本邦技術・ノウハウ



特殊なコーティングが施された管渠

同事業に欠かせない技術の一つが「推進工法」。地中を掘削する円形状の推進機に取り付けた推進管をジャッキで押しながら管渠を作る非開削の工法で、

工事が地下で行われるため、家屋が密集する住宅地や交通渋滞が深刻な道路など、開削工事が困難な地域で活用される技術です。パッケージ2の管渠整備は、13.2km に対し推進工法を用い、これほど大規模な推進工事はハノイ市では初めてです。同工法自体は珍しくはありませんが、日本は自国と似た軟弱地盤での工事を得意としており、特に同事業に採用された推進機には、本邦企業の技術である磁気探査装置が装備され、金属を2メートル手前で探知することで電機や水道、通信などのライフラインの破損を防ぎ工事を安全に進められるよう工夫されています。また、水温が高く微生物が発生しやすいハノイ市の環境に対応し、管の腐食や劣化を防ぐため推進管の内部に特殊な加工を施すのも日本の技術です。



エンサ下水処理場(上空写真)



エンサ下水処理場視察の様子  
(一番右：JFE エンジニアリング八田さん)



プレッシャーの様子  
(右：茨木専門家)



ヤスダエンジニアリング 向井さん 鉄建建設 大越さん

地下インフラ事業は地味ながら住民の生活に直結する大事な事業であり、JICA は 90 年代から長年にわたりハノイ市の水環境改善を支援しています。引き続き同事業の早期完工に向けベトナム側との協力を進め、ハノイ市の衛生環境改善、社会経済発展を支援していきます。

\* ベトナム上下水道協会ホームページ記事(2020年5月6日)より

また、エンサ下水処理場のポンプステーションには、本邦企業の提案により、珍しい円形連続地中壁が採用され、工期短縮と工事コストの削減が図られています。

## JICA ベトナム事務所 ホーチミン出張所 首席紹介

増田親弘(ますだちかひろ)  
JICA ベトナム事務所ホーチ  
ミン出張所 首席駐在員

ホーチミン出張所対象地域：  
フーイエン省・ダクラク省以  
南の南部ベトナム



ありがたいことに、今般、2回目のベトナム赴任の機会を得ました。前回の赴任が約3年前ですので、ついこの前、ではあるのですが、この3年間でベトナムの国内総生産(GDP)は22.4%伸び、一人当たりのGDPは3,000ドルを越えるともいわれています。ユニクロは6店舗、マツキヨや無印良品も1号店をオープンし、ハノイのPho Thinではフォー一杯が65,000ドンになるなど、経済成長を体感せずにはいられません。英系不動産大手ナイト・フランクの2019年レポートによれば、超富裕層に分類される3,000万ドル(約31億円)超の資産を有するベトナム

人の増加率は世界で最も高い水準だそうで、実際フォーブスの世界長者番付に名を連ねる人も、3年前の1人から今では5人になっています。

かつての日本にもそのような時代がありました。昭和の高度経済成長期には年平均10%以上の経済成長を果たし、国民全体が経済成長の果実を享受していました。しかし、急激な経済成長の中でも、「一億総中流」とされるように、格差の少ない社会と言われていました。企業に勤め始めると年功序列で給料が上がり、終身雇用で定年まで勤めた後は年金生活に移行する。飛び抜けて大金を稼ぐ人が少ない代わりに、みんながそこそこの裕福という、そんな時代でした。しかし平成から令和にかけての日本は、経済全体が頭打ちになる中、能力主義・成果主義が進み、経営のトップマネジメント等の「優秀な人」に権力と富が集中し、二極化が進むようになりました。資本主義社会において、「優秀な人」に富が集中するのは自然のようにも思いますが、それが、勝



ち組、負け組、と表現されるような、人生の優劣まで示唆するかのようになってしまうとすれば、行き過ぎの感を拭えません。

昭和から更にさかのぼった江戸時代には、富を扱う商人は下層に位置づけられていました。権力を持つ武士は、富を扱うことを良しとせず、名誉を得ることを第一としました。武士は食わねど高楊枝、という言葉に代表されるように、富が無くても気品高く生きることを美德とした時代でした。もちろん、江戸時代の社会システムが最もいいというつもりはないですし、一部に富が集中することもあったと思いますが、全体として権力者に富が集中しないようなエコシステムが機能していたというのは、「一億総中流」の社会が出来上がったことと無関係でないように思います。昭和の時代は、富よりも、仕事で成し遂げた誇りを大事にするような、そんな社会だったのではないかと思います。

さて、ベトナムですが、GDPに占めるベトナムの保健支出の割合は 5.9% (2017 年)\*と、近隣諸国に比べても圧倒的に高く、直近 18 年間の平均保健支出も約 5.4%です。2011 年の東日本大震災の時には、日

本に対し真っ先にお見舞いや多額の義援金といった支援の手を差し伸べてくれました。今年は、ベトナム中部地域に幾度となく台風が襲い甚大な被害が発生しましたが、ベトナム事務所のナショナルスタッフが率先して募金や古着を集め、被災地に支援を届けました。社会福祉を大切にする国家、国民性であることを物語っているのだと思います。

先日、ホーチミン出張所のナショナルスタッフから、Bầu ơi thương lấy bí cùng, Tuy rằng khác giống nhưng chung một dân. という諺の話を聞きました。冬瓜とウリが、同じ場所で同じように育つ様から、お互いに助け合うことの大切さ、を戒めたものなのだそうです。ベトナムは、これからも経済成長を成し遂げて益々豊かになっていくのだと思いますが、世界中で発生している格差の拡大を反面教師としつつ、お互いに助け合うことを大切にしながら、健全な社会の発展を果たしてもらいたいと思います。二回目の赴任の機会をいただいた縁を大切に、少しでもお手伝いできたらと思っています。

\* GDP に占めるベトナムの保健支出の割合 (WHO, 2017 年): ベトナム 5.9%、インドネシア 2.9%、タイ 3.8%、フィリピン 4.5%、中国 5.2%、マレーシア 3.7%

JICAベトナム事務所では、本報を通じて皆様との情報共有を目指しています。ご意見、ご要望は、vt\_oso\_rep@jica.go.jpまでお送り下さい。

Website <https://www.jica.go.jp/vietnam/index.html> (日・越・英)

Facebook <https://www.facebook.com/jicavietnam> (越)

発行: JICAベトナム事務所 広報班